

## 1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 26 年 8 月 25 日

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490100447		
法人名	社会福祉法人広島光明学園		
事業所名	グループホーム高陽荘		
所在地	広島県広島市安佐北区深川8丁目36-7 (電話) 082-842-2266		
自己評価作成日	平成	26	年 7 月 21 日
評価結果市町受理日	平成	年	月 日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	
-------------	--

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 NPOインタッチサービス広島
所在地	広島市東区福田1丁目167番地
訪問調査日	平成 26 年 8 月 21 日

### 【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

隣接している施設との交流を持ち楽しみのある生活を送ることが出来る。
-----------------------------------

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>開設3年目に入った高陽荘は、広島市郊外の自然に囲まれた場所にある。併設施設に特別養護老人ホーム・幼稚園・保育園など複数の施設があり、様々な交流を行っている。利用者は明るく元気で、利用者どうしが穏やかに会話する姿はほほえましい。その明るく元気な利用者を支える職員は、利用者の機能維持・生活のリズムを整える・見守り観察を常に行っている。介護計画に基づいた援助内容が毎日の生活の中に組み込まれており、チェックシートで1時間ごとの記録がなされている。ケア方法も職員どうしが連携しながら、1つ試してうまくいかない時は別の方法、さらに別の方法…と、柔軟に模索しながら最善のケアを行っている。ある日のレクリエーションは歌を歌いながら手拍子して風船パレーをする、という楽しいものである。レクリエーションや体操・歩行訓練・洗濯物たたみ・様々な楽しみごとを組み合わせ、日常生活を大切に明るく楽しく過ごしているホームである。</p>
--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	「甘露の雨とこしえに」の理念のもと、困っている方を助け、平等に入居者と接し共有してケアを行っている。グループホームでは「明るく楽しく」を意識しながらケアを行っている。	法人・高陽荘全体(特別養護老人ホーム《以下特養》・グループホーム)の理念については、毎朝の全体申し送り時と毎月の職員会議で園長からの話により、職員に浸透している。グループホームでは「明るく楽しく」を目標にし、管理者自ら率先して「明るく楽しい」雰囲気を作り、利用者に接している。その意識や取組姿勢は職員全体にも行き渡っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	公民館祭りや隣接の施設・幼稚園の行事への参加、交流を図っている。またボランティアとの交流も行っている。	今年初めて行った夏祭りでは、近所の方や家族に焼きそばを振る舞い、花火大会を楽しんでいただいた。毎月様々なボランティア(オカリナ・二胡・ギター・お話し会・高校生の太鼓等)の来訪があり、特養の方と一緒に交流している。他に、中学生の職場体験、専門学校生の研修受入、併設幼・保育園との交流等活発に行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	入居者の方々とご近所へ散歩に出かけ顔なじみを行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	会議で家族や包括の意見、アドバイスを参考にし改善、向上の努めている。	偶数月第3火曜開催と決め、年6回行っている。メンバーは利用者代表、家族代表、地域代表、民生委員、地域包括支援センター職員、区介護保険課職員(時々)、消防署職員(災害訓練時)、園長、職員である。毎月発行するホーム便り「こここ新聞」を見てもらいながら、利用状況・行事報告・軽微事故報告等を行い、出席者から質問・意見を頂いて、ケアに活かしている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	地域の包括などお知らせや新聞を送付している。	運営推進会議には、区職員が年に数回、地域包括支援センター職員の出席は毎回あり、その都度質問や相談をしている。安佐北区介護保険課窓口へ書類提出・諸手続き等で出向いた時には、ホームの様子を伝え質問等行っている。市が主催するケアマネ勉強会に毎月出席している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	勉強会で身体拘束・抑制になる行為を確認し、見守りや所在確認を行うなど取り組んでいるが事故防止の為に施錠している箇所もある。	毎月の勉強会で身体拘束については度々取り上げ、職員はよく理解し、身体拘束のないケアを実践している。日々のケアの中で気づきがあれば、管理者からまたは職員どうして話をし、改善している。不穏者・帰宅願望者には、目を離さない見守り重視のケアを行い、付き添って庭を散歩する等行っている。3階のフロア内は全て、また1階までの階段やエレベーターも自由に利用できる。安全のため1階玄関だけは施錠しているが家族の了解を得ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	勉強会でスタッフと話し合い、防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	日常生活自立支援事業や成年後見制度については勉強会などで勉強しているが今現在は活用していない。		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	契約・解約などの際は十分説明している。面会時にご家族より疑問や質問があった時はその都度対応している。		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	毎月入居者のご様子を手紙で送付し、行事や写真・ホームページで掲載し更新している。	面会のある家族にはその都度利用者の様子を伝え、意見や要望を聞くようにしている。遠方や仕事の都合で面会が難しい家族にはこちらから電話をし、話を伺うようにしている。また、毎月発行の「にこにこ新聞」と今月の様子を個別に書いた手紙を送付している。家族からの意見や要望は、全職員で共有しケアに活かしている。	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	入居者の方に寄りよい生活を送って頂けるようにスタッフの意見を取り入れて実行し、毎月勉強会を行い反映している。	毎月、特養と同時開催される職員会議、ホームでのケア会議・勉強会では、全職員が意見を出し合い、運営に反映させている。管理者は、職員と同じ立場に立ってケアにあたり日常的な会話を心がけ、お互いに話しやすい関係を築いている。	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	スタッフの個々の個性を活かし、スタッフがやりがいのある就業が行えるようシフトなどを考えている。		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	スタッフ一人一人の把握し、勉強会や話し合いを行い向上に努めている。		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。</p>	研修や公民館祭り、行事など地域交流の場で意見交換やネットワーク作りなどサービスの質を向上するよう努力している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	ご本人と会話の中で思っていること感じていることに耳を傾け、安心を確保できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	面会時や電話などでご家族からの要望や意見を聞き対応している。またご本人のご様子もお伝えするようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご本人・ご家族のニーズを考え、適切な対応を心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	スタッフは入居者の目線で対応し、一緒に生活していると思っ頂けるように努力している、		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご本人・ご家族の意向を聞き、出来る限りご家族と一緒に過ごせる様、外出・外泊を積極的に行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	友人やご家族など定期的に面会に来られる方もおり、本人が慣れ親しんだ関係を維持できるよう配慮している。	家族・友人・知人の面会を歓迎し、対応している。併設デイサービスで仲良しだった方がホームへ遊びに来られる。行きつけの美容院・旅行・外泊等、家族の協力を得ながら支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	入居者同士の関係を把握し、良好な関係が継続できるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	ご本人・ご家族の要望があれば支援できるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者やご家族から話を聞き、希望や意向の把握に努めている。	利用開始時と介護計画見直し時にはアセスメントシートにより詳しく聞き取るようにしている。(利用者・家族・職員から。) 日常のケアでは、入浴時の一对一の時、また折紙やちぎり絵などの作業をしながら隣に座り、話を聞くようにしている。利用者の思いや意向は職員間で共有している。	把握した思いや意向は、毎時間ごとのチェックシートに記録されることを提案したい。介護計画作成時にそれらを盛り込み、さらによりよいケアへとつながるよう期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご家族からや入居者とのコミュニケーションの中で分かったことを記録し、共有するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	本人に合った日常生活を把握し記録している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	本人やスタッフと話をしたり、ニーズを把握し、現状に即した計画を作成している。	利用者・家族の意向や希望(ニーズ)をもとに作成される。ニーズは介護保険更新時に見直している。ニーズに沿った長・短期目標が設定され、3カ月・6カ月ごとに見直される。サービス内容は毎日の生活の中に組み込まれ、モニタリングが毎日行われている(「できた、できなかった」と「目標に対する職員の見解」)。毎日個別に1時間ごとの記録を行い(チェックシート)、この記録とモニタリング・職員の意見をもとに見直し・立て直しが行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別に実施や様子などを記録し、情報を共有して気づきや改善策を話し合い見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	現状ではサービス以外に独自で考え、可能な限り入居者にあったニーズに対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	隣接している施設やショッピングなどに出向き、楽しみのある生活が送られるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している。	本人・ご家族の要望を聞き主治医との連携を行い、適切な医療を受けられるよう支援している。	利用者が希望するかかりつけ医の受診支援を行っているが、現在はほとんどの方が提携医を利用している。提携医へは毎月の定期受診に向いている。常勤している特養の看護師には日々の健康状態で不安があれば相談することができる。緊急時には24時間訪問看護師と連携、提携医の指示を仰いで、適切に処置されている。利用者の希望があれば訪問歯科の受診支援も行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	訪看時や併設施設の看護師に必要なに応じて相談をし、助言を受けてその都度対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合、定期的に様子を伺ったり、ご家族と連絡を取り、様子や情報交換や相談に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化した場合はご家族・ご本人と話し合い、出来ることをスタッフと共に取り組んでいる。	契約時に利用者・家族の希望を聞き、ホームの方針を説明している。 容態の変化や急変時にはその都度、家族・医師・看護師・職員で話し合いを重ねている。ホームのできる限りのケアをしながら入居を続ける・提携医へ入院・特養へ移動等、個別に最善の方法をとっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	勉強会で急変時や応急処置の知識を取り入れている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	定期的に地域と避難訓練を行い応援・消火・避難活動を行っている。	特養と合同で毎月避難訓練を行っている。うち2回は消防署立会いの下行われている。 今年度は運営推進会議と同時開催される予定で、地域の方・民生委員の参加もお願いしている。 地域では「地区ベル」が設置され、互助の仕組み・関係ができています。	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	一人一人の言葉使いや対応に十分配慮し、対応している。	職員は「自分の親を入居させたい」と思えるようなケアを心がけ、ことば遣いも丁寧すぎず、相手に失礼のない親しみやすい話し方をしている。 個人ファイルは鍵付きのキャビネットに保管されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	本人の希望や意思や意見を尊重し、自分で決めて頂くよう心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その目をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	本人のペースでやりたいことなど希望に沿って支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	本人の自己決定により衣類など希望にそい、助言しながら支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	品数を増やしたり、行事食や楽しくなるような盛り付けをし、入居者も配膳や片付けを行っている。	カロリー・栄養バランスのとれた食事が、特養の厨房で手作りされている。減塩食やミキサー・刻み食等利用者に合わせた食事形態にしている。職員は休憩の関係上、見守り・介助に徹している。夏祭りでは焼きそばを作ったり、バーベキュー・お好み焼き・誕生日の手作りケーキ・おやつ作り等、食べることが楽しくなるように工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	栄養士によりバランスやカロリー計算を行い、水分量も毎日把握し、一人一人の状態がわかるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	自分で出来ない方などは声掛けや支援により口腔ケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	入居者の排泄パターンを把握し、声掛けや誘導を行い、トイレへ行く習慣をつけている。	日中は自立の方がほとんどで、101歳の方も車イスから移乗しトイレで排泄できている。必要な方のみ、排せつチェック表をつけ、声掛け誘導を行っている。夜間は転倒防止のためオムツの方もおられるが、ポータブルトイレを利用する方もおられる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	主治医と相談したり、寒天やプルーンなど食べたり運動を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	夜間はリスク管理のため、行っていない。入居者の体調に合わせて時間をずらしたり翌日に入浴して頂くなど対応して行っている。	週2回、ユニット毎に曜日を定め、午前中から午後にかけて順番に入浴している。ほとんどの方が風呂好きで、職員と一対一の話を楽しんでいる。入りたくない人には時間・日をずらしたり声掛けの職員を変えたりして、無理強いをせず、入浴を楽しむケアを行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	本人の希望やリズムに合わせて入眠して頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の作用・副作用に留意し、本人の体調の変化に気をつけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	一人一人の能力や楽しみを見出し、充実した生活が送られるよう支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	体調や天候によって園外散歩を行い、車椅子や歩行が難しい方も用具などを活用し支援している。またショッピングも希望されれば人数を募り、行っている。	体調・天候がよければ、広い庭を楽しみながら散歩している。渡廊下でつながっている特養へは、行事の度に出向いたり希望者が「硬筆教室」「絵画教室」に参加している。近所のショッピングセンターへ買物やアイスを食べに出かけたり、初詣や花見、幼・保育園の運動会の見学、希望者のみの光明寺参りにも出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	基本、預かりをしているが、本人が希望されたり、買い物時は所持し使えるようにしている。また小遣い程度なら持っている方もおられる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	入居者の希望時には手紙やはがきが送られるよう支援している。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居者が把握出来るように案内を出し、また不快にならないように清潔面に気をつけている。	広く明るい食堂兼居間は清潔に保たれ、利用者が作成した季節の折紙飾りやちぎり絵、行事の写真が飾られ、マガジラックには週刊誌や本が置いてある。もみじユニットの居間からは、造園中の庭が整う様子を楽しみながら眺められる。各居室から出られるベランダは、3階の外周をほぼひと回りできる回廊になっていて、歩行訓練に励む利用者もおられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	一緒に過ごしたいと言う方もおられるし、一人でいるほうが良いと言われる方もおられる。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	本人・ご家族と相談し、本人に危険でない限りタンスや仏壇・写真などをおいている。	ベッド・洋服ダンス・整理ダンス・袋戸棚が備えてある。居室の扉やカーテン・袋戸棚は薄いピンクに統一され、ベランダへ通じる掃き出しの窓ガラスからは季節の移ろいを感じられ、明るい雰囲気になっている。利用者が落ち着いて過ごせる居室となるよう、家族と相談しながら馴染みの物や思い出の物を持ち込んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	建物内部は転倒リスクを最小限に工夫され安全に自立した生活が送られるよう配慮されている。		



V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

### 3 サービス評価の実施と活用状況

事業所の外部評価の実施と活用状況について振り返ります。  
「目標達成プラン」を作成した時点で記入します。

#### 【サービス評価の実施と活用状況についての振り返り】

実施段階		取り組んだ内容 (↓該当するものすべてに○印)	
1	サービス評価の事前準備	<input type="checkbox"/>	① 運営者，管理者，職員でサービス評価の意義について話し合った
		<input type="checkbox"/>	② 利用者へのサービス評価について説明した
		<input type="checkbox"/>	③ 利用者家族へサービス評価や家族アンケートのねらいを説明し，協力をお願いした
		<input type="checkbox"/>	④ 運営推進会議でサービス評価を説明するとともに，どのように評価機関を選択したかについて報告した
		<input type="checkbox"/>	⑤ その他（ ）
2	自己評価の実施	<input type="checkbox"/>	① 自己評価を職員全員が実施した
		<input type="checkbox"/>	② 前回のサービス評価で掲げた目標の達成状況について，職員全員で話し合った
		<input type="checkbox"/>	③ 自己評価結果をもとに職員全員で事業所の現状と次のステップに向けた具体的な目標について話し合った
		<input type="checkbox"/>	④ 評価項目を通じて自分たちのめざす良質なケアサービスについて話し合い，意識統一を図った
		<input type="checkbox"/>	⑤ その他（ ）
3	外部評価（訪問調査当日）	<input type="checkbox"/>	① 普段の現場の具体を見てもらったり，ヒアリングで日頃の実践内容を聞いてもらった
		<input type="checkbox"/>	② 評価項目のねらいを踏まえて，評価調査員と率直に意見交換ができた
		<input type="checkbox"/>	③ 対話から，事業所が努力・工夫しているところを確認したり，次のステップに向けた努力目標等の気づきを得た
		<input type="checkbox"/>	④ その他（ ）
4	評価結果（自己評価，外部評価）の公開	<input type="checkbox"/>	① 運営者，職員全員で外部評価の結果について話し合った
		<input type="checkbox"/>	② 利用者家族に評価結果を報告し，その内容について話し合った
		<input type="checkbox"/>	③ 市町へ評価結果を提出し，現場の状況を話し合った
		<input type="checkbox"/>	④ 運営推進会議で評価結果を報告し，その内容について話し合った
		<input type="checkbox"/>	⑤ その他（ ）
5	サービス評価の活用	<input type="checkbox"/>	① 職員全員で次のステップに向けた話し合い，「目標達成プラン」を作成した
		<input type="checkbox"/>	② 「目標達成プラン」を利用者，利用者家族や運営推進会議へ説明し，協力やモニター依頼した（する）
		<input type="checkbox"/>	③ 「目標達成プラン」を市町へ説明し提出した（する）
		<input type="checkbox"/>	④ 「目標達成プラン」に則り，目標を目指して取り組んだ（取り組む）
		<input type="checkbox"/>	⑤ その他（ ）

## 2 目標達成計画

事業所 グループホーム高陽荘

作成日 平成 26 年 9 月 3 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価をもとに職員一同で次のステップへ向けた取り組み目標について話し合います。  
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎにならないよう、事業所の現状に合わせた取り組み課題を取り上げ、優先順位を決め目標達成に向けた具体的な取り組み内容を記入してください。

### 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	9	入居者の意向の記録が十分でない。	意向の記録をしっかりととる	入居者の話をしっかりとチェックシートに記入する。	1ヶ月程度
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。